

伊勢原市総合戦略推進会議（第2回）会議録

〔事務局〕 企画部経営企画課

〔開催日時〕 平成27年7月29日（水）午後4時00分～午後6時00分

〔開催場所〕 伊勢原市役所 3階 議会全員協議会室

〔出席した委員〕 14名

小崎 敏 男（座長）
荒木 淳 子（座長職務代理）
小薄 宏 三
大谷 健 治
笠原 浩
川副 正 教
熊沢 学
西郷 公 子
篠崎 文 一
菅谷 裕 子
辻 敦 史
原 昭 智
引田 道 人
吉池 沙 季

〔欠席した委員〕 2名

魚見 なつみ
佐藤 清

〔事務局〕 7名

高山 松太郎（市長）
宍戸 晴 一（副市長）
武山 哲（副市長）
山口 清 治（企画部長）
黒石 正 幸（経営企画課長）
熊澤 信 一（経営企画課副主幹）
飯嶋 智 雄（経営企画課主事）

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 2名

《議事の経過》

1. あいさつ

2. 議 題

(1) 「伊勢原市人口ビジョン」及び「伊勢原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定について

3. その他

(事務局)

伊勢原市総合戦略推進会議を開催させていただきます。会議が円滑に進行できますよう、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

なお、本日、傍聴の方が2名いらっしゃいます。傍聴人の方にお伝えいたします。お手元にございます「傍聴を希望される方へのお願い」によく目をお通しくださるようお願いいたします。

それでは、本日の委員の出席でございます。お手元の方に名簿をお配りしてございますのでご覧ください。欠席の連絡が入っておりますのが2番の魚見さん、10番の佐藤さん、このお二方が今日は欠席ということですので、今日は14名の委員さままでお願いしたいと思います。

また、本日の市の出席でございますが、第1回の出席メンバーの他に、高山市長がぜひ委員の皆さまの議論を聞きたいということで出席していただいております。よろしくお願いいたします。また、その他、市の職員で、特に総合戦略の関係する部署である都市部から黒田部長、それと子ども部から吉野部長に出席をいただいております。よろしくお願いいたします。

それでは、まず会の開催にあたりまして、小崎座長より一言ごあいさつをお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(座長)

皆さん、今日は大変暑い中、また、お忙しい中ご出席賜りましてありがとうございます。

それでは、議題1番、「伊勢原市人口ビジョン」及び「伊勢原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定について、事務局より説明をお願いしたいと思います。

ます。よろしく申し上げます。

(事務局)

—資料について説明—

(座長)

どうもありがとうございました。今日は検討事項が盛りだくさんで、ご意見を全員から頂くというわけにはいきませんので、ご意見がある方ということで限らせていただきます。まず、資料 1 と資料 2 に関してご意見がある方は、挙手をなさって発言をしていただきたいと思います。

資料 1 は、前回発言があった所に関しての市の現在の対応が書かれております。それから、資料 2 に関しては、総合戦略の骨子案というかたちが出ております。資料 1 と資料 2 に関して何かご意見がある方はいらっしゃいませんか。

私の方から 1 点申し述べたいと思います。資料 2 で、人口規模の維持・少子高齢化の対応、ここと関係している所で、4 番目の基本目標と施策展開の方向なのですけれども、ここに追加事項として、交通網の整備とか交通アクセスといった事項が入ってもいいのではないかと思います。

交通網の整備に関しては企業誘致のことがメインになっていますけれども、伊勢原市は非常に交通が混雑するというのは皆さんご存じだと思いますし、住民の方は非常に困っているだろうと思います。それから、国道 246 号線を使っている人たちは非常に混雑するという認識は十分持っていると思います。これは伊勢原市だけでできる話ではないかもしれませんが、一応事項として挙げておくことは重要だと思います。

それから、あまり指摘はなされていないのですけれども、実は交通網の整備は生産性と関係してきます。生産性を高めるためにはどうすればいいかと国を挙げて一生懸命検討しているのですが、その中の一つとして、地方においては交通網の整備というものが非常に重要な位置を占めているということと、交通網を整備することによって人口が流入してくるということが経験則でわかっております。ですから、長期の施策目標としてそういったものを掲げてはどうかと私は思うのですけれども、どうでしょうか。

(事務局)

資料 4 の 8 ページ、施策展開の方向の (3) をご覧ください。「公共施設等の既存ストックを有効活用し、快適な生活環境を整える」の中の③に、公共交通対策の推進という、これは公共交通に限った話が掲載されております。今、座長がおっしゃられた交通網や交通アクセスといった視点も今後検討していきたいと思いますが、この資料 2 に載せていくとなりますと、(4) に掲載することになるのではないかと思います。その辺りはまた事務局の方で検討させていた

だきたいと思います。

(座長)

ありがとうございました。基本的に、政策目標を考えるときには、いわゆる短期・中期・長期というかたちで考えなければいけません。そういうことを考えれば、交通網の整備というのは長期的な話になると思います。

それでは、資料 1・2 に関して皆さんの方からご意見はございませんか。どうぞ。

(委員)

前回の第 1 回目の会議でも、個人的な話ということで 3 分間ぐらい頂いて話をしました。そのときにも申し上げたのですが、資料 2 の 4 番の (1) の一番上にある、「地域を支える商工業の競争力を強化し、企業や第二創業を支援する」という所で、資料 4 の施策展開の (1) の③に当たると思います。銀行の場合は、創業支援もそうですけれども事業承継、いわゆる M&A やそういったところに力を入れております。これは特に金融機関うんぬんではなく、全国的に後継者の問題が起きつつあると思うのです。

たとえば銀行と地元の金融機関で、後継者に困られている事業主の方がいらっしゃる場合に今でも相談を受ける場はおありになろうかと思うのですが、金融機関も相談にのりますし、地元の商工会さん、もしくは市役所の関連部署等でそういった相談に対して積極的に対応するというようなことをもう少し大々的に打ち出すことができるのではないかと考えております。

私もそういった場面に立ち会うことがよくあるのですが、お取引先にそういった情報が誤った内容で伝わってしまうと事業にも影響が出てしまうということもありますので、事業主の方にとっては非常に相談しづらいお話です。ただし、後継者の問題は現実的に刻々と迫ってきているということがございますので、何かそういったところで地元の金融機関としてご協力できることがあれば、積極的に対応させていただければと思っております。

(座長)

どうもありがとうございました。これは、基本的には連携、またはそういった組織を新しく、市と金融機関、あるいは商工会議所を交えて窓口か何かを設定するというかたちでの対応がいいのではないかと考えられますが、いかがでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。今でも、③の所に事業継承支援ということがございまして、具体的な方策として、今、支店長がおっしゃったようなことを考えていきたいと思っております。どういうふうを書くかはまたご相談させていただきたいと思っております。

(座長)

他にはいかがでしょうか。

(委員)

資料 2 で、現状の分析から基本的な視点、基本方針の 4 ということで、目標ということを知りやすく書いてあって理解したのですが、もう一つ、4 番が極めて重要になってくると思います。いきなり 4 項目が入っていますけれども、私の経験からいきますと、基本理念というのが一つあって、それをブレイクダウンしたものがこの 4 つの目標でもいいのではないかという気がしました。

分析した資料を見ていなくても、これだけ製造業があるという、こんなに恵まれた環境はありませんし、自然や歴史があるということも大変な財産です。もう一つは、座長もおっしゃったように、地域を発展させるために交通網というものは死活的に重要なファクターですから、それを最大限にやっていく。医療等もありますが、総合的な理念としては、既存の恵まれたものを生かしていく。具体的に言えば製造業を中心とした産業、自然、交通、医療というのを生かして、そして目標があってもいいのではないかという感じがしました。良さを最大限に生かした展開という理念があってもいいのではないかという意見です。

(座長)

この理念に関しては、前の計画書か何かで述べられていますか。関係が結び付けられますか。

(事務局)

総合計画の中では、基本構想の中でそういう理念など書かせていただいております。また、おっしゃられますように、今回の総合戦略につきましても、本市の強み、または弱みなどを現在も分析を続けておりますので、次回、総合戦略の素案を提出させていただくときにはそういったところもお示しできればと考えております。

(座長)

どうもありがとうございました。資料 1 と 2 についてはこれぐらいにして、メインは資料 3 と 4 だと思いますので、私の方で 3 に関して 4 枚ぐらい資料を作ってきました。企画課の方から提示されたものに加え、伊勢原の、いわゆる生産性と製造業の中の付加価値を工業統計から引っ張ってきて、大急ぎで作ってみたものが 4 枚ぐらい配布されていると思います。伊勢原の製造業の中身を、隣接する市と関係付けて計算してみました。

表 4 というふうにかかれている「伊勢原市と隣接する市の生産性」。これは、いわゆる付加価値を事業者ベースの事業所で従事している人数で割ったところ

のもので、平塚の製造業のところは1人当たり120万となっているのですが、これが他よりも飛び抜けて高い数字が出ていますので、調べてみました。その調べたものが、平塚市の製造業の付加価値と伊勢原市の製造業の付加価値という2つの表となっています。

最初の表4に書かれているものは経済センサスから取ったもの、そして、もう一つの表3と平塚市の製造業の付加価値というのは工業統計から取ったもので、製造業の中身を調べました。経済センサスと数字が違っているのですが、従業員1人当たりの現金給与総額や付加価値といったものが載っていますので、参考にさせていただければと思います。

それから、表4の伊勢原市と隣接する市の生産性に関してですが、伊勢原市の生産性の高い所は医療や福祉、それから教育・学習支援です。それから平塚・秦野・厚木・伊勢原市を比べたものですが、金融保険業の生産性が最も高いという結果が載っております。また、もう一つは、情報・通信のところのインターネットの付随サービス業とか情報サービス業といったものが隣接する他の市よりも生産性が高い、といった結果がそこから読み取れると思います。参考までにこういうものを提示しておきました。

それでは、まず、資料3の方から皆さんの意見を伺いたいと思います。資料3で何かありませんか。

(職務代理)

意見ではないのですが、興味から質問させていただきます。8ページの図表10の観光消費額の推移で、2014年に消費額が上がっていて、その他の消費額が増額になっています。前回の総合計画を策定したときは、伊勢原の観光客の消費額が非常に少ないということが問題になっていたのですが、改善されたのだなと思っていますけれども、どういうものがその他の消費額に入っていて、また、なぜ2014年に上がっているのかということをお教えいただければと思います。

(座長)

事務局からどうぞ。

(事務局)

棒グラフの赤いものが宿泊費で緑が飲食費、紫がその他の消費額ということで、おそらくお土産ですとかそういったものです。クルリンがかなり活躍しましたので、そのへんも影響しているのかなとも思っております。2013～2014年ではかなりの伸びになっております。

(事務局)

荒木先生がおっしゃられた通り、総合計画を作ったときには、お金を落とさずにそのまま帰ってしまうという状況だったという意識をしております。

ここで、県の方の事業として「核づくり」というものがございます。その認定に 4 地域が候補として挙がっておりまして、伊勢原もその一つです。今、一生懸命その取り組みをしている中でいろいろな事業展開をしております。おもてなしなり、キャラクターなり、そういった面で観光客が実際に増えているのが現状でございまして、今までそのまま帰っていった方々が、大山に訪れたときに、土産等で少しでもお金を落とさせていただけるようになっているのかなと思っています。

(座長)

どうもありがとうございました。その他のところについては、元データでその他にどんな項目が含まれているかということを見なければ、よくわかりませんと思います。

(事務局)

特に元データがどうなっているのかをもう一度確認させていただきたいと思っています。

また、補足ですけれども、7 ページの図表 9 では、観光入込客数が非常に下がっています。これは、道灌祭りのときに台風のような日が 1 日あって、それが非常に影響してしまったということを担当から聞いております。

(座長)

どうもありがとうございました。それでは、私の方からいくつかお話ししたいと思います。「総合戦略策定に係る本市の現状分析」というタイトルが付いていますが、多分あと数回あるので、ここには触れられていません。しかし、やはり現状分析をするときには財政の状況を加えておかないと、いわゆる新国立競技場のようになりかねません。財政再建計画が出されていますので、そちらの方を加えて少し記述されておいた方がいいのではないかと思います。

それから、資料 4 とかぶってしまいますけれども、基本目標の中で、伊勢原市が他の市よりも現実的に上なのだという数字がほとんど見当たりません。やはり、そのところを改善していくということが重要だろうと思います。

それから、個別の所になるのですが、資料の 5 ページで、新たな雇用の創出という所があります。伊勢原市が神奈川県および全国平均から比べると低いということはわかるのですが、その理由について現在どう考えているかをお聞きしたいということです。

それから、8 ページの観光の所ですが、これも観光の消費額をもし増やすのであればもう少し大々的な対策を打たなければだめだと思います。現状分析するとき最も重要なものは、伊勢原市は他の市と比べて何を持っていないのか。あるいは何を持っているのかということを確認するべきだと思うのです。デメリットを克服すればいろいろなメリットが出てくるわけです。

たとえば観光でも、隣の秦野市には温泉がありますが、伊勢原市にはありません。今は観光ブームですので、ここに温泉地があれば小田原まで行かなくても、伊勢原に来て山登りをして温泉に浸かって、あるいは観光をして1泊して帰ろうという都心の人たちが来ることが考えられます。ですから、何らかのかたちで施策を打たなければならないというふうに思います。

それから、11ページの地域産業の振興より、新たな雇用を創出するという所ですけれども、農地面積を誇る県有数の農業振興地であるが、農業従事者の高齢化や担い手不足により、市内農家数は減少傾向にあるということです。これの対策みたいなものもどういうことが行われているのか。また、実際にやってみて効果があるのか、ないのかといったこともお聞きしたいと思います。

まだいくつかあります。12ページのポテンシャルを生かした地域産業の振興により、新たな雇用を創出するという所で、県内では2番目に低くなっているということです。これも何らかの理由があると思いますので、そういった分析が必要だろうと思います。

それから、15ページの伊勢原市の認知度の所で、知名度が低いといいますがけれども、やはりホームページを見ていますと、学生の評判はすごく悪いです。これは刷新するか何かしないとだめだろうと思いますし、PRにもう少しお金をかけるか、あるいは何らかの対策を立てなければいけないと思います。

それから、本当は地方創生というふうにいっているのですがけれども、市のレベルだけでは解決できないものがたくさんあると思います。交流人口を増やすためにはどうすればいいか。先ほどアクセスの話がありましたが、今ある伊勢原市の資料を読むと観光の関係でロマンスカーを伊勢原市に停めようという運動があるようです。そういうかたちで、なるべく新宿から近いかたちにする運動を行っていくということも必要でしょうし、平塚とを結ぶJRとモノレールか何かでつなげて交流人口を増やす。これが本来はまさしく地方創生です。

市ができることには限界がありますが、ただ、そうはいつでも方向性としてどこかで記述なり言及はしておかなければ、立ち消えてしまう可能性が出てくると思います。

それから18ページで、大山地区の人口がここ10年近くで非常に減っていますけれども、その地区の対策に関して、やはり新東名ができることで十分なのかといった対策も検討が必要だろうと思います。

もう一つお聞きしたいのは、19ページで、人口が増えている地区がありますけれども、これは市が誘致をしたのか、あるいは民間ベースでそうなったのかというところをお聞きしたいと思います。

それから、その次の20ページで、先ほど申し上げた生産性の話もありますが、大学が非常に多く入ってきています。職業があれば若者が出ていきませんので、

そういったところも対策として必要だろうと思います。

少し長くなりましたけれども、私の方からは以上です。答えられる所だけで結構ですので、いくつかお答えいただいて、あとは皆さんで話をさせていただきます。

(事務局)

今、座長からいろいろと意見を頂きましたので、答えられる範囲でお答えしたいと思います。

まず 5 ページの、ポテンシャルを生かした地域産業の振興により、新たな雇用を創出するというところで、全国・県の平均と比べると伊勢原が下回っていることについて考えられる理由はということです。正確なその分析はまだしておりませんのでわからない所もありますけれども、伊勢原市の場合は東京近郊であって起業までする方が少ないのかなと個人的に思うところではあります。新しい雇用を創出するというところで、創業する方を増やすかどうかというところは今後検討が必要でしょうけれども、新たな雇用を創出するというところから、まずは企業誘致といったものを先行させていきたいと考えているところであり

(事務局)

12 ページをご覧いただきたいと思います。各市を比較した市街化区域率をお示ししております。伊勢原市は黄色く出ていますけれども、伊勢原市は 21.2 パーセントということで、神奈川県内で 2 番目に低い市街化率となっています。こういったところから、今、取り組みを進めております新たな産業用地の創出という所で、企業をそこに呼んできて雇用を創出するという取り組みを、今、実際進めているわけでございます。

また、北インター周辺につきましても、そういった企業誘致のできるようなポテンシャルがございますので、そちらにも新しい開発等をかけていく計画を持っております。現状の市街化区域の面積率からすると、新たな産業あるいは企業を誘致する用地がないという状況から、資料 5 ページの表の 1.58 パーセントというところにも結び付くのではないかと考えております。

(事務局)

つづいて 15 ページです。若者からホームページの評判が悪いということを生がおっしゃっていましたが、実は市のホームページもリニューアルをかけたばかりで、いきなり評判が悪いと言われると困ってしまうのですけれども、やはりこういうものはいろいろな意見を聞きながら取り組んでいく必要があると思います。そうしたところから、今後検討させていただきたいと思います。

また、16 ページの交通アクセスについてモノレールというお話もありましたけれども、そのへんにつきましては、近い将来というわけではなく遠い将来と

いう話になろうかと思いますが、先生が言われるように書き込むことが必要だということですので、それは検討させていただきたいと思います。

それと、18 ページ、地区によっては減少している地区が多いというところで、減少に対する対策が必要ではないかというお話がありました。まさにそうしたことはこの総合戦略の中でも取り組みを検討していきたいところですので、今後の取り組みの中に書き込んでいきたいと思います。

また、19 ページです。石田地区・高森地区につきましては、昨年度、流入人口が非常に増えたということになっておりまして、左側の石田地区につきましては成瀬第二地区という区画整理が行われた地区でございます。そういったことで、50 代とか 20 代の方が非常に増えています。これは市が誘致したのか、民間が誘致したのかということでございますが、UR が整備をしたということになっております。

それと、20 ページ、大学があるということで、大学から卒業した時点で非常に流出が多いということが顕著に表れておりますので、このへんにつきましても今回の総合戦略の取り組みの中で何らかの取り組みを打ち出していきたいと考えております。

(事務局)

それから、11 ページでお示しをしております農業の分野になりますけれども、経営耕地面積・農家数などが減っている現状に対してどういった対策を取っているのかというご質問をいただきました。現在、総合計画の取り組みの中で複数の取り組みをさせていただいております。

一つには、まず、農業の基盤の整備を促進しましょうといったところで、農業の経営を維持できるような基盤整備の取り組みを現在行っております。それ以外にも農業経営の基盤を強化しましょうということで、企業の参入、いわゆる新たな担い手の確保、農地の集約化などを促進いたしまして、現在遊休となっている農地や荒廃農地の解消に取り組んでおります。

また、新たな農産物のブランド化についても、現在、総合計画の取り組みの中で考えさせていただいております。これによりまして地場産品の販売促進など、いわゆる儲かる農業といったものを促進して現在の農業をさらに振興していくことによって、少しでも農家人口を減らさないような取り組みを進めております。

それから、特に大山地区もそうなのですけれども、石田地区以外の複数の地区で人口減少が進んでいて、その対策をどう考えるのかといったご質問が先生の方からございました。まさにそのご質問に答えるために総合戦略ということ取り組みを進めておるわけなのですけれども、今回、総合戦略の考え方につきましては 2 つの考え方があるといわれております。

一つには人口減少とか、地域経済の衰退といったものにどう対応して、少しでも人口が減らないように、少しでも産業が活性化するようにということで対策を打っていくわけなのですが、もう一つの対策といたしましては、いわゆる調整戦略ということで、人口についていえば、人口が減っていく地域というのはどうしても生じていくでしょうと。そういった中で、それでもそれぞれの地域がどういうふうに快適に機能的に生活できるか。その中には交通対策といったことももちろん含まれてくると思うのですけれども、機能をいかに維持していくかという視点からも、人口減少を続けていく地域については、総合戦略の中で検討が必要なのかなと考えております。以上でございます。

(座長)

どうもありがとうございました。それでは、皆さんの方からどうぞ。

(委員)

私は30代なのですが、そういった視点から少し意見を述べさせていただきます。資料3の15ページ、地域ブランドの認知・浸透状況で16位という数字が出ております。実は、私、商業振興計画というものがあまして、その中でプロモーションをする部会の部会長も担当しております。

伊勢原でどういうことをやっていこうかと考えたときに、周りの私の知り合いだったり、市町村などを見てみたら、綾瀬市は非常に一生懸命プロモーション戦略をやっていたことがわかりました。たまたまそのプロモーションの長を私の知り合いがやっていたので聞いたところ、市役所の方が非常に積極的に若者を取り込んでプロモーション戦略をされていたそうです。綾瀬市は商業より工業の方が強い町なのですけれども、商工業での若い従事者、それこそ青年会議所や商工会議所といった所のメンバーを取り込んで、町が主体となってやっていたという経緯がありました。ですので、もしかしたらそのうち綾瀬市に抜かれてしまうのかなという気がしました。

先ほど、若い人たちが伊勢原のホームページに魅力がないと感じているという話もありましたが、やはり若い世代を取り込んだプロモーションが必要ではないでしょうか。そういうことをやることによって若い人口が流入してきたり、このまま伊勢原に住み続けようという意欲が湧くのではないかということがこの資料を読んで私が気付いた所です。

あと、私はお米屋をやっているのですが、商店街を通じていろいろな活動をやらせてもらっています。たとえば伊勢原市で、この間も大山の景観が2つ星としてミシュランに掲載されたとか、県も「第4の観光の核づくり」に認定されたといったことは市から伝わってくるのですけれども、私たち商業者に対して、その認定されたことや掲載されたことが今後どうやって活用されていくのかということが伝わってきません。もしかしたらそれは商業者で考えなければ

いけない部分なのかもしれませんが、そういった意義というのはもう少し役所からあってもいいのではないかということを感じています。

たとえば、ミシュランで 2 つ星になってこれから外国人がたくさん来るだろうから、公共交通機関の外国語の表記をもっと徹底させようとか、商店街で多言語に対応できる取り組みをしようとか、そういった考えが伝わってくれば、この町で仕事をしようかなと思う若い人も増えるかもしれませんし、そういった取り組みをすることによって、商売をもう少し続けてみようとか、次世代につなげていこうということがあるかもしれませんので、もうひと声頂いてもいいのではないかと感じています。

最初の資料に戻りますが、資料 1 の最後の 5 番の提案は私がさせてもらったものです。商店街と観光協会で協力して、今年のゴールデンウィークに駅前で見物客約 200 人から頂いた意見もこの提案に入れさせてもらったので、ぜひそういったところもくみ取っていただければと思います。ホームページでのプロモーションも大事ですし、意味が違うのだというところを発展的なところで言っていただければということを感じました。

(座長)

どうもありがとうございました。補足をしますと、ホームページの評判が悪いというのは、たとえばイベントがあるときに、市のホームページに記載がないのです。あるいは観光協会かどこかでやられているのですが、そこをリンクしていないという意見もありました。日が近くなったらそれを市のホームページで紹介をするといったことを積極的にするとか、改善する余地はあるだろうと思います。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。おっしゃったように、ミシュランだとか観光の核づくりに認定されまして、一生懸命やっているところではあります。一生懸命やっているところが見えてきていないところが非常に寂しいところでもありますので、今後も、こういったことをやればそういったものが今回の委員さんしかり、市民の方にもご理解いただけるのかということは一緒になって考えていく必要があるのではないかと思います。また、商工会や観光協会といった所とも連携しながら、あと、商店街とも一緒になってやっていく必要があると思いますので、今後も連携しながら進めていきたいと思っています。

(座長)

他にはいかがですか。どうぞ。

(委員)

いろいろな資料を見ていると、全部良くなればいだろうと思います。全部が 1 ポイントでも 2 ポイントでも上がっていけば市のポテンシャルはもっと

大きくなると思うのですが、この市をいったいどういう町にしたいのかというフラットデザイン的なことがまず最初に話し合われていかないといけないと思います。そのへんのことを誰が考えるのかということが一番重要なのではないかと思います。市長が考えるのか、市民が考えるのか、市役所の職員が考えるのか。本当はそこを最初に話をしていかないと、どこを伸ばしていくかという部分が「全部」になってしまっているような気がして仕方ありません。このままでいくと、結局、「全部がんばってやっついこう」ということで終わってしまう気がしますので、もう少しポイントを絞る方法があればその方がいいと感じました。

それから、資料3の29ページ、伊勢原市は人口10万人当たりの医師数が県内トップで629.46とずば抜けて高くなっています。たとえば今から2時間後に有事が生じたとして、伊勢原市に何人のドクターがいるのかを考えたとき、おそらくみんな伊勢原市には住んでいないと思うのです。伊勢原に定住しているドクターはどのぐらいいるのかという情報を市役所としてお持ちかどうかわかりませんが、ある人に、「せっかくそれだけ医療があるなら、医師はみんなお金持ちなのだから市に住んでもらえばいい。そうしたら税金も上がるし、病院があるのだから、有事の際には手厚い看護もできるでしょう」と言われました。

そういう意味でいくと、伊勢原市の人口統計の中にドクターの割合をもっと増やすという目標を持ってもいいのかなということを他の所で聞いたことがあって、こうやって見ると、今のままではなくて、もっと進むためにそういう情報が必要になってくるのではないかと思います。

(座長)

どうもありがとうございました。病院の医師は比較的市内に住んでいるというのがインターネットで調べた私の印象ですので、わりと職住近接で住んでいるということが一点です。

それからもう一点、国もそうですけれども、こういうことをやると総花的になるということは、もう以前から市の担当者と話をしています。ウェイト付けをやらないといけないのではないかという話は逐次やっついまして、多分、予算のところでそのメリハリを付けるという話をしていました。事務局の方から答えていただけますか。

(事務局)

まず、どこを伸ばすかという話です。行政の計画ですとどうしても総花的になってしまうのが今までの常でして、総合計画もそうなのですが、今回は総合戦略ということで人口減少の克服と経済の活性化というところを主眼としておりますので、おっしゃったようなかたちでなるべくやっていきたいとは思って

おります。今後の議論の中で進めていきたいと思ひます。

それと、医師の住んでいる率を増やしていこうという話については、今後の取り組みの中でそうしたことができるかどうか、考えていきたいと思ひます。

(座長)

どうもありがとうございました。他にはいかがですか。どうぞ。

(委員)

第1回目は欠席いたしましたので、確認です。今、いろいろとお話を聞いて、先ほどお話が出ましたように、人口減少をどういうふうと考えているかといったときに、どういうふうにするのか。先ほどの資料にもあったように県内の市街化区域率が低いです。パッと見ていただくとわかるように山ばかり、坂ばかりです。こういう所で大きい企業誘致はそんなに多くは望めないだろうと思ひます。

その代わり、南西地区だけは比較的平らなので人口が増えたりしていますけれども、市内全体として考えれば、市の一番大きな資源である医療、それと、今の話で医師が多いというところ。ここから浸透させていくとすれば、やはり子育て世代の人たちにどういうふうには伊勢原市に来てもらうかといったところで、資料21ページに「選ばれる」町をつくと書いてあるのですけれども、実際の子育て世帯、また、これから子どもをつかっていきたいという人たちがどういう要望を持って、どういふ町だったら引っ越してくるのか。

伊勢原は東京に1時間と少しで行けるということを考えれば、十分通勤可能範囲です。そうすると、とにかく若い世代に伊勢原に来てもらう、そして住んでもらうということを考えれば、早めにある程度ターゲットを絞った話を進めていかないと間に合わないと感じます。

(座長)

ありがとうございます。まさしくそうだと思います。今のお話と関係するのですけれども、資料3の28ページで「選ばれる」町づくりと書いてありますが、小学校・中学校にクーラーが付いていないのです。これで選ばれますか。選ばれないでしょう。

私が最初に申し上げたように、目標をたくさん持つことはいいのですが、基本目標の中で他の市よりもこれだけは優れているというものを作らなければいけない、ということはこういうことなのです。だから、メリハリを付ける。これは、多分、委員の皆さまのコンセンサスを得られるところだと思います。

財源をどうするかという問題はもちろんありますが、小学校・中学校にクーラーを付けることに反対する人は、親御さんにも住民の中にもいないと思ひます。ここ10年ぐらいで気候が変わってきていますし、8月、9月から学校が始まってしまいます。そういったところをやらずして、子育ての議論は基本的に

はできないと思います。財源の問題もあるので何とも言えませんけれども、やはりそういったところを少し考えていただきたいというところです。事務局としてはいかがですか。

(事務局)

まさにおっしゃるように、子育て世代の支援は非常に重要だと思っていますので、そうした取り組みを数多く出していきたいと思っています。

(委員)

子育て世代のことをおっしゃったので、思い当たったことがあります。通勤圏なので東京には1時間で行けるのですけれども、徒歩で駅に行ける範囲を考えると、私も実際に探したのですが、家族世帯が住める賃貸物件が伊勢原にはほとんどなかったり、賃貸物件が老朽化していて非常に魅力がないということがありました。

勤労世帯であると、駅から徒歩10分圏内に住まなければ東京に行くのは難しい遠さではあるので、勤労世帯が賃貸や分譲も含めて住めるような物件を駅周辺など、協同病院がなくなった跡地をどうするのかわからないのですけれども、たとえばああいいう用地を使って物件をつくって売り出したりアピールするぐらいしないと、勤労世帯が伊勢原に住んで東京に通勤するのはなかなかまだ厳しい状況だと個人的には思います。

(座長)

どうもありがとうございました。インターネットで調べると、通勤圏というのは30分だといいますから、1時間かかって、またそこからというとうとう負担があります。先ほど言いましたようにロマンスカーを停めようとか、そういう声を挙げていかなければ通じません。短期的な政策ではなく長期的な政策として声を挙げていくことは非常に重要なことだと思いますので、明記するか、あるいは何らかのかたちで考慮していただきたいと思います。どうでしょうか。

(事務局)

どこまで書けるかわかりませんが、検討していきたいと思います。

(座長)

どうもありがとうございました。時間が押してきましたので、資料4に入りたいと思います。現状分析の所とここはリンクしている所がありますから、オーバーラップしている所も多々あると思いますけれども、何かありましたら挙手をお願いしたいと思います。どうぞ。

(委員)

資料2と4の所で純粋な疑問です。資料2の右側の4の基本目標と施策展開の方向で、ここの細かい取り組みが資料4に書いている位置付けになっているかと思います。私の不勉強もあって恐縮な質問ですが、数値目標例というもの

が出ています。これは例ということなので、今後変わりうる可能性があるのかどうかをお聞きしたいと思います。また、資料 4 の取り組みが、果たして数値目標例と必ずしもリンクしているのか。

KPI を設けなければならないという重要性はわかっているのですが、この取り組みからどうして年間転入超過者数なのだろうと思いますし、合計特殊出生率は何となくわかるのですが、(4) の健康寿命というのが突然出てきたような感じがします。これは目標値というふうに捉えてよろしいですか。
(事務局)

いわゆる KPI につきましては施策ベースで設定をすることになりますので、資料 4 でお示ししております丸囲いの数字、たとえば資料 4 の 2 ページでは(1) 施策展開の方向「地域を支える商工業の競争力を強化し、企業や第二創業を支援する」の中の①製造業支援の充実、この単位ごとに KPI を設定いたします。

今、おっしゃっていただいている数値目標は例ということで、今後変わりうるものではございますけれども、事務方レベルではこういったものが考えられるのではないかとということで置かせていただいております。

(委員)

そうすると、施策ごとの数値目標と、この基本目標ごとの数値目標はどういう位置付けになるのでしょうか。

(事務局)

おっしゃられたように、KPI であれば、具体的な主な取り組みを実施することによって施策が充実しなければいけないものですので、結果的に取り組みの成果が施策の達成状況を測る KPI に反映される、それぞれの取り組みの積み重ねで KPI が向上するという理屈になります。

その施策の積み重ねによって施策展開の方向なりが充実し、その積み重ねによって基本目標ごとに設定する数値目標が達成するという積み上げが理屈であります。基本目標 (2) の「魅力の効果的な発信により多彩な人の流れをつくる」の数値目標例として年間転入超過者数を置いているわけなのですが、これにつきましては、その下に記載させていただいている施策展開の方向が充実することによって達成される、そのためにはさらに下の階層の施策、さらに下の階層の取り組みといったものの積み重ねによって (2) の基本目標、数値でいえば数値目標例が達成されるというのが本来の理屈になります。

ですから、おっしゃられるように、なるべくそれぞれの取り組みや施策の効果が反映された結果として求められる数値目標を置くことがベストだということにはなりません。

(座長)

数値目標は今後検討して出てくるという理解でよろしいですか。

(事務局)

おっしゃるとおりです。今、このように置かせていただいておりますが、何かふさわしい例があればもちろんこの場でご提案いただいても構いませんし、内部的にも今後引き続き検討を進めてまいります。

(座長)

たくさんありますので、まず資料4の1～2ページに関して何か意見がおりの方は、挙手をしていただければと思います。

(委員)

資料4の2ページ、(2)の②の農業の高度化の中に、農産物のブランド化・6次産業化推進とあります。特に6次産業化推進ということについて市としてどのような取り組みを考えておられますか。6次産業化という言葉はやはり言葉ですので、そのところをどういうふうに市として取り組まれるのかをお聞きしたいと思います。

(座長)

お願いします。

(事務局)

6次産業化の取り組みにはどういったものがあるのかというご質問です。6次産業化の取り組みにつきましては、今後、専門家のご助言なども頂きながら、一つには、現在、既に6次産業化をしているような商品のリニューアルも検討されていく可能性もあると思います。また、事業者とも協力してケータリングカーといった移動販売車の取り組みも今後させていただくことになっておりますので、その中で新たな6次産業化、新たな商品開発なども進めていけるものと想定しております。

(座長)

よろしいですか。

(委員)

新たな雇用を創出する、地域産業の振興という所があります。農業分野において6次産業化という部分は何が一番足かせになるのか。その部分にはお金です。要するに、行政なり他の事業者がある程度支援すればどんどん増えるわけです。しかしいろいろな法規制の中において農産物を加工するのも衛生面で難しいですし、かといってそれを農家または市の方がやろうとすれば、それなりに資本、投資が必要になります。そういうところがやはり大きなメリットになるだろうということは行政の方では十分ご承知だと思いますし、そういう前提から「6次産業化の推進」という言葉が入っているのだと思いますので、財政的な部分においてできるのかなと思ってお聞きしたわけです。

(座長)

そういうものを現実的なものにするために、たとえば銀行さん、信金さん、農業事業者さん、市で出資してファンドをつくって立ち上げてやるということは他の市ではやられていないことなので新しい試みです。もちろんリスクはありますけれども、何もやらなければ何も取れませんし、他の市がやっていないようなことを何か少し試してみることは非常に重要だと思います。

それから、今の農業の高度化ということに関係しますが、ここは都心に近い所の農業ですので、IT をフルに活用するような農業施策をやっていかなければ生き残れないのではないかと考えております。

(委員)

今、おっしゃる通り IT という部分は重要になります。また、農協にとっては PR が大事です。はっきり言って、伊勢原という町は認知されていません。平成 25 年ごろから、産業能率大学さんに産学連携をお願いしていろいろな取り組みをやっているのですが、学生自体が伊勢原をよく知りません。伊勢原の学校に来ているのではないかといても、伊勢原の駅から大学までバスで来ているのでそこしか知りません。やはり伊勢原という名前があまりにも認知されていません。この前シティセールスのところで挙げた問題ですが、やはり伊勢原市を知ってもらわなければいけません。やはり PR 不足です。

農業に関しても同じで、去年から農産物に「阿夫利の恵」の名前を付けてやっていますが、なかなか浸透していませんので、また今年も産能大学に行って考えようという話もしました。いろいろな意見が出ますが、それをいかに実現させるかというところでは行政にいろいろお手伝いいただいて、実現できるものも出てきています。やはりいろんな所に投げかけることが大事ですから、いろいろな所とつながりを持って、それを市や県に発信するルートを確保することが大事なのではないかと思えます。

(委員)

現場レベルの話で思うことがあったのですが、6 次産業化で、今さら伊勢原内に工場をつくるといっても現実的ではないと思っています。やる人は既に自分で加工所を建てたり、神奈川県内であれば技術センターの工場ができましたし、瓶詰とかであればそこで既にやられています。

伊勢原の農業はいろいろな人がいろいろなものを作っていて、いまさらどれを加工するのかというところから始めなければ 6 次産業化推進といわれてもイメージが湧きませんので、個人の人工場をつくる時に助成を出すというふうなものにしてもらった方がいいと思います。

(委員)

2 の所で、先ほどから銀行さんから事業承継という話が出ていますが、今の話の中では何となく「ものづくり」より「ひと」づくりという感じがします。そ

この部分にもう少し入っていかなければ、先ほどの 2 つ目の資料であった農家数が減っているとか、大山周辺で観光職をやっている方が減ってしまっているという部分がなかなか止められないとか、個別にやっていかなければいけない部分が出ているのではないかと想像します。

6次産業は私は全然わかりませんが、ブランド化というときに、たとえば小田原で「ういろう」というと「ういろう」の一店舗の価値の高さみたいなものがあるのですが、「かまぼこ」というと 13 社ぐらいの組合があります。13 社が一致団結している部分としていない部分があるのですが、「かまぼこは小田原だ」ということを固まってアピールしている状態です。箱根湯本なら、「温泉まんじゅうはここの方がおいしい」とか地元の方はいろいろおっしゃるわけですが、あれもこれもではいけないと思います。

もちろん個で頑張っていただいて有名店を押し出していくことも必要だと思うのですが、お酒でもお菓子でも何でもいいので、「伊勢原の製品といったらこれだよ。これがおいしいんだよ」という部分がどこかはっきり出ているフラッグシップが何点あるともう少しアピールにつながっていくのではないかと思います。それは役所だけの話ではなく、民間の力、みんなの団結という部分があるのではないかと思います。

あと、先ほどから住宅施策の話がたくさん出ています。ものづくりが結構強いので土地区画整備事業をされていて、今も誘致しようとしている区画整備事業があるのですが、交通整備や子育て支援のための公園づくり、学校へのクーラー設置をして、住みたくなる住居があるという住宅施策が必要だと思います。賃貸でもいいので大企業などの幹部、近隣大学の先生が住みたくなるような土地区画整備事業で誘導するということです。

県西部では非常に成功している例もありまして、開成町は人口が増加しています。土地区画整備をどんどんやっていて、少なくともこれまでは人が増えています。山北町は山だらけでダムや丹沢湖があるという厳しい状況にもかかわらず、町長の大号令で駅前に賃貸住居をつくり、子育てに優しい町ということをアピールしたところ、うまく人が入っています。

ですから、そういうことを何かする必要があるのかどうかということです。お金がどのぐらいかかるか、誰が主体にやるのかということは置いて、そういうイメージです。そこに公園があつたり、交通の利便性ということも加わって、今まで住んでいた方たちにとっても便利で住んでいて楽しい町というふうになればいいわけです。そこに医療や福祉が絡むのか、スマートシティのようなものと絡むのかはわかりませんが、そういうことを組み合わせただけで何かあれば良いと思います。しかも、お金持ちの中高年だけではなく、大学を卒業した人たちが就職して東京に通える住宅のようなものもあればと思います。

先ほど言った医療の話ですが、他の市と比べて病床数が多くないということがあります。先生だけが多いということは一体どういうことなのかということをもう少し調べて、その人たちをどういうふうに生かせるのかということをもう少しやらなければアピールにつながらないと思います。

もう一つは、休日 1 日当たりの平均滞在人口の件で、町田市民が 1,000 人来て、世田谷区から 600 人ということですが、これはいったいどういうことだろうかということ。町田の人も大山に登るのかはわかりませんが、そういうことももう少し調べるといいと思います。ショッピングセンターがあるわけでもないのに何をしているのかという部分をもう少し調べて、町田と世田谷の人だけではなくもっと来てもらうようにすることを含めてやってみてはどうかと思います。

それから、資料 4 の 8 ページで、郷土資料館の整備とありますが、そういうものをぜひやってもらいたいと思っています。大山についてももう少しアピールできる博物館なり組織が必要だと強く思っています。神奈川県から東海道から全部「大山街道」という道標がありますし、大山の宮司さんいわくいまだに長野や福島といった所から来られる信仰もあるそうです。

また、行田市では、お盆の季節に大山に向かって火を灯すという風習がある所が今でもたくさんあって市の無形文化財になっているそうですし、無形文化財ではありませんが、小田原にもそういう所があって、7 月何日かになると灯すそうです。地元の方も理由はよくわかっていないようですけれども、大山に向かって献灯する風習が残っていますので、交流人口を増やしたいということであればこういうものを体系的に説明できたりする人たちを育てるということをぜひしていただきたいと思います。こういうことをやればアピール度が上がると思います。

(座長)

どうもありがとうございました。大変有益なご意見をたくさんいただきました。

(事務局)

いろいろなご意見を頂きましたので、今後検討させていただきます。あと、プロモーション推進計画の中にも人材を育てるというものがありますので、それはまた取り組んでいきたいと思っています。

(座長)

では、次のページの 3~4 ページで何かありましたらお願いします。

(委員)

2 ページに戻るのですがけれども、商業の振興の所で、商店街の活性化支援、空き店舗の活用など書いてありますが、内容はありきたりです。具体的なことを

書いていなければ、たとえば市役所の担当に「こういったことをやってみたいのだけど」と言いに行っても、「できない」とだけ言われてしまうということがあると思います。伊勢原市がというわけではありませんが、お役所というのはそういうところがあると思います。

実は、私は、県の取り組みを伊勢原に持ってきて自分でやったという経緯があるぐらい、商店街に関しては県の方が素晴らしい施策を持っていたりします。これを伊勢原で同じようにやれというのは難しいところがあるかもしれませんが、先ほどの6次産業化の所と同じで、今回は、商業の振興に関して、「こうだからこうだ」と商業者が市役所に言えるようにもう少し具体的なことを書いていただきたいという提案です。

3~4 ページの部分で、前回のときに先生が「外貨を稼ぐ」ということをおっしゃったと思います。今回、地方創生に関して新聞などを読ませていただきました。歴史の活用という所は私が気になる所で、歴史を掘り下げることにより力を入れてしまうと、たとえば神奈川ですと鎌倉や小田原の歴史に伊勢原はかなわない部分が当然あって、同じところで勝負してしまうと当然埋もれてしまう、負けてしまうと思ってしまうので、歴史からどうお金を生み出すかということは伊勢原にとっては重要ではないかと思えます。

先ほど博物館をつくるという話も出ましたが、そこへ来て伊勢原のものを消費してもらい、体験してもらいといったことまで含めた歴史資源の活用ということを出さないで、神奈川県内では勝負できないのではないかと思いますので、どう活用して、どう外貨を稼ぐかということまでぜひ明確にさせていただきたいと思えます。

(座長)

どうもありがとうございました。これはよろしいですね。他にはいかがですか。どうぞ。

(委員)

先ほど座長が財源という話をされていましたが、たとえばふるさと納税といったものをうまく活用して農産物の宣伝をする、大山の観光を全国の方にしていただくという取り組みを組み立て、学校のクーラーといったものに充てるのだということを明確にイメージしながら市のモデルのようなかたちでいけば、生活しやすい環境、雇用の確保、それから地域資源の活用という中でうまく組み立てられるのではないのでしょうか。ふるさと納税だけでは当然無理ですが、そういう働きかけをすることによって、伊勢原という町を多くの人に知っていただけたらと思います。モデルになるのではないかと個人的に思ったので、発言させていただきました。

(座長)

ふるさと納税の現状はどうなっていますか。

(事務局)

今、やっていません。

(座長)

ぜひ検討されたらいいと思います。他にはいかがですか。

(委員)

行政の方でできる部分、あるいはやる部分、それから民間にやってもらいたいこと、あるいは民間や事業者の方がやる部分をもう少し分けてはどうでしょうか。

活性化するためにはやはり外貨を取り込むことです。そのためには民間が原動力になって、それをアシストする位置付けとしての行政がグランドデザインを作ったり、長いスパンで物事をとということです。はっきりと、行政はここまでやるから組合や民間、あるいは団体はこういうことを検討してほしい、やってほしいということに分け、基本的には民間や事業者が必死になって生きるためにやるというスタイルで流したらいいような気がします。

(座長)

要するに、民間ベースと行政がやるべきことの区分けをもう少しした方がいいというご意見です。ごもっともだと思います。他にはいかがですか。

(委員)

総花的な部分は仕方ないかもしれませんが、伊勢原のブランドとはいったい何なのかと。神奈川県の中で伊勢原はどういう位置付けでいくべきなのかとか、たとえば産業立地にしても、区画整理ということがありますけれども、どういう産業に来てほしいのか。しかも、業態だけではなく観光でやるのか。大山の観光ということもありますが、観光でいくにしても大山だけではなく、あそこは観光に特化して、伊勢原はどうなのかというものを作っていかなければ、結局どこでもやっていることと同じです。

資料を見ると、他市と競争ということばかり書いていますが、これはどこの市もやっている話ですので、その中で勝ち抜いていこうとするとやはりお金の問題もありますし。伊勢原としてそういうものが必要ではないかと思います。

(座長)

一つには、伊勢原自体をブランド化するということです。私も2~3日前にふと気付いたのですが、伊勢原ってどこから名前が来たの？という疑問が湧いて調べてみました。そうしたところ、伊勢神宮から来ていて分社ということですから、その神秘的なところをモチーフにしながら物語風に作っていくかたちでブランド化していくことは非常に重要だといえると思います。

時間が押していますけれども、最後の所がありますので、全部を通して言い

足りないことがありましたらお願いします。8ページの所は、今、出ていましたが、郷土資料館などを整理しながら伊勢原というものを総合的にブランド化していこうということだと思います。

それから空き家の実態調査ですが、これは私が以前から申し上げていますが、もし空き家が出てくれば、市が空き家を買って入れて子育て世帯に安く提供すればいいと思うのです。そういうものをホームページで出して若者の定住化を図ることは非常に需要だと思います。

それから7ページの所で、健康づくり支援というのがあります。これについては、医学部があるので医学部と提携しながらやられた方がいいと思います。高齢者の健康寿命を延ばすにはどうすればいいかということについては、健康寿命を延ばすいくつかの要因が学術的に明らかになってきています。一つは睡眠です。2番目に適度な運動です。3番目として口腔ケアです。4番目にコミュニケーション。この4つが非常に重要なファクターだということがごく最近の研究でわかってきています。ですから、パンフレットを作ったということを市民にPRすることは非常に重要だと思いますので、ぜひ市としてやっていただきたいと思います。

あと、子育て支援の所で事務方の方とは少し話をしたのですが、たとえばクーポン制度を作った5パーセントの割引とかそういうものを子育て世帯に配布する。ダイエーなどでは実際に子育て世帯に対して5パーセント引きということをやっています。そういう所と積極的に提携しながら、うちの市は子育て支援をやっているのだということ力を強くPRしていくことは非常に重要なことですし、ソーシャルネットワークをフルに活用してそういったことをホームページでどんどん流していくことは非常に重要だと思います。

それから、ライフワークバランスのことが出ていますが、これは企業の人たちにPRをして、ライフワークバランスを実際に伊勢原市の中でやられている人たちを表彰するとかそういうかたちで奨励をしていくことも重要だろうと思います。

それから、人材の所です。近隣には大学がありますので、たとえばその大学院を活用するというかたちで市の人たちを大学院に送り込む。たとえば企業に関しては、半額は市でもって半額は自分で持つとかそういうかたちにして高度な人材、ビッグデータを解析してそれを施策に生かせるような人材育成は非常に重要だと思いますので、そういうことにも積極的に取り組んでいただきたいと思います。

他に何かあれば、お願いします。

(委員)

若い世代や子育て世代が伊勢原から出ていくことが問題だと思います。その

うち、自分自身もこれから社会に出て子育て世代になると思います。最近、「住む所を決めるには何を重要視するか」という話を友人としたのですが、交通のアクセスがいいということと、ショッピングモールなど買い物にすぐ行けるとということと、いざというときに頼れる病院があるといった点が挙がりました。

交通の話は短期的な問題ではないので仕方がないと思いますし、これから伊勢原にショッピングモールをつくるかといえばそれも現実的な話ではないと思います。しかし、伊勢原には病院があるということはとてもいい点だと思いますし、海老名にショッピングモールができるということはそういった役割があると思いますので、その中で伊勢原に住もうとなるには子育てをするときに、子どもが1人いれば経済的な負担の援助があったり、もう一人産めばさらに子育てをしやすいように金銭的な免除があったりするといいいということが一つです。

あと、今、就職活動をしていて、まだ一つも内定をもらっていない友人がいるのですが、そういったときに地元で就職すると奨学金が免除されるとか、地元で就職するとこんないいことがあるというPRがあればいいと思います。本当は東京に行きたいけれども、伊勢原でもこんなに過ごしやすい、住みやすいといったものがあるのなら伊勢原に住もうかなというふうに思うのではないかと思うので、子育ての面や、就職するときのお金の面などの援助があれば、若者が伊勢原に住もうかなと少しでも思うのではないかと思います。

(座長)

どうもありがとうございました。これで、われわれに与えられた時間を全部消費いたしました。市の方から何かありましたら、お願いします。

(副市長)

副市長の宍戸でございます。遅刻いたしました、申し訳ありませんでした。今、お話を伺っている中で、この後のこちらの取りまとめにあたってさらに情報を提供していかないといけないのかなという部分についてですが、やはり伊勢原地域の総合戦略を練るわけでございます、行政の仕組みとして当然県の方の総合戦略の中で伊勢原あたりがどういう位置付けになってどういう施策を入れていこうとしているのかといったあたりの話が非常に大きな影響を及ぼしてまいります。そのあたりの関連の情報については、また入手でき次第お知らせをさせていただきながら検討をしていただければと思っております。

今回の地方創生は、やはり一市だけで何かをやることは無理があるということが実態かと思えます。先ほどの日産テクニカルセンターの実際の所在地は厚木市でございます、今回の統計データの中には厚木市民は入っているのですが、伊勢原市民には何も入っていないという実態がございます。ですので、統計データから表れてくるものが必ずしも市の姿を忠実に表しているの

かということになりますと、あれだけ大きな事業所になりますので、それがどちらの市に入っているかというのは実際のところ大きな影響があるのではないかとも思っております。

そういった意味で、伊勢原市域にまつわるデータについては、数字上表れてきているものに加えてこんなものもあるのだというところを補足させていただきながらさらにご検討していただければと思っております。

地方創生の狙いといいますのが、昔から国の方で他極分散型の国土の形成とか、あるいは東京一極依存構造の是正というもの半世紀にわたって国策としてやってきているのですけれども、やはり結果としてなかなかうまくいっていないという中で、今、これから先の人口減少、本格的な少子高齢社会に対応していくために地方の発想というものを生かしていかざるを得ないという話がございます。今、お知恵を拝借しているところです。

その中で、私どもの方とすると、地方の方でアイデアを出しているいろいろやれとおっしゃるのであれば、ついでにお金と権限の方も合わせて頂けるといろいろなことができるようになるのだけれども、というところがございます。実際、国の方では、来年度の予算に高齢関連の特別枠で全国で 1,000 億ぐらいの数字が、今、出始めているようです。全国で 1,000 億というのは、実は伊勢原にするとあまり使い手がない金額になるのも実情でございます。

ただ、今日頂いているアイデアの中で、多分、民間と行政で役割分担するということが大前提になると思いますけれども、限られた財源の中でこれから先、伊勢原市が力点を置いて、どうしてもこれだけは税金を入れてでもやっていくべきだろうというところについてアイデアを頂戴できれば、そのところについては、当然苦しい中でのやりくりですけれども、行政の守備範囲の中で新たに組み込まなければいけないという部分についてはできるだけそういう配分ができるように心掛けていきたいと考えておりますので、ぜひこれまで通りの率直な意見交換を継続していただければと思います。よろしく願いいたします。

(座長)

どうもありがとうございました。市には結構耳の痛いような話もあったと思いますけれども、委員の皆さまは伊勢原市民ですので、少しでも良くなってもらいたいという思いでのご意見であったかと思っております。

それでは、時間が超過しておりますので、今日の予定はここまでといたします。それでは、その他の方に移りたいと思います。次回の日程について事務局からお願いいたします。

(事務局)

どうもありがとうございました。長時間にわたりいろいろな意見を頂きまし

た。それでは、次回の日程、会場等につきましては追ってご連絡いたします。市役所内か、あるいは市役所周辺になろうかと思しますので、よろしく願います。

また、今日、いろいろとご意見を頂きましたけれども、まだ言い足りないとか、まだご意見があるということであれば、8月8日月曜日までにメールで事務局の方に送っていただければと思います。よろしく願います。また、次回以降の推進会議につきましては、会議当日、ご都合が悪くて出席できないという方につきましては、事前に事務局の方にレポート等を送っていただければと思いますので、よろしく願います。事務局からは以上でございます。

(座長)

どうもありがとうございました。

それでは、以上をもちまして本日の推進会議を終了いたします。皆さま、会議の進行にご協力いただき、ありがとうございました。

(終了)

《配布資料》

資料1：第1回総合戦略推進会議意見概要と取組状況等

資料2：伊勢原市人口ビジョン及び伊勢原市まち・ひと・しごと創生総合戦略
(骨子案)

資料3：総合戦略策定に係る本市の現状分析

資料4：政策体系の整理シート